

わが国の社会科学分野における著者発見の手掛かり —日本十進分類法の学派別分類記号—

A clue to find the author in the social sciences in Japan :
the classification number of “School of Thought” of Nippon Decimal Classification

斎藤 憲一郎
Kenichiro SAITO

1. はじめに

学びを進めていくとき、社会科学分野の本の選択では、「読書と人間形成」⁽¹⁾とは異なる選択を余儀なくされることに気づかされます。

出版目録に掲載されている本のタイトルを見ると社会科学分野と人文学分野ではタイトルに使われている言葉、用語に違いがあります。例えば、社会科学分野には『財政のしくみがわかる本』はリストされていますが、『君たちはどう生きるか』は出てきません。社会科学分野と人文学分野の出版目録にリストされているタイトルは、もちろんこの2つのタイトルだけというわけではありません。『欲望の資本主義』や『14歳からの哲学』も各専門分野にリストされていますが、学問分野が異なると、タイトルに使われる言葉や用語も違ってきます。

本を選ぶには、本の主題(テーマ)、本の内容を知る必要があります。本の内容を知るには、本を手にとって見る事が出来る場合、タイトル、目次、まえがき、あとがき等が役に立ちます。

社会科学分野における本の選択では、タイトルだけでなく著者についても考慮する必要があります。例えば、本のタイトルが同じで著者が異なる2冊の本の「財政政策の話」の場合、政府が財政支出をして雇用をつくり出し、経済活動を活発にする点に言及している著者なのか、或は、政府は出来るだけ財政支出をせずに、企業の自由な経済活動によって経済を活性化する点に言及している著者なのかという点です。

図書館学におけるこれまでの文献では、1960年代に出版された『図書の選択』が、「社会科学文献の選択は極めてむずかしい」⁽²⁾として、以下のように指摘しています。

「これら広義の社会現象に対する著者の価値観、判断は著者の思想的、学問的立場により種々様々であり、自然科学、技術分野ほど統一的なものがないからである。」⁽³⁾

法学の分野では「価値観の研究の視座」⁽⁴⁾というタイトルの雑誌記事論文が見られま

すが、図書館情報学の分野では、社会科学分野と「著者の価値観」について言及し著者発見への案内についての文献は知る限りでは見られません。

ところで、図書館は、「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設」⁽⁵⁾です。そのサービスには、「図書館資料の分類排列を適切にし、及びその目録を整備すること。」が含まれています。⁽⁶⁾

図書館資料の組織化における資料の配架には日本十進分類法(以下、NDC)が使われています。NDCを開いてみると、分類表について次のように解説しています。

分類表は、「特定の分類体系を提示し、その体系の各項目名に一定の方式に従った記号を対応させた一覧表であって、それを適用する図書館の蔵書を恒常的に統一された分類配架に導き、またそれらの図書の書誌的記録を分類目録として編成することにより、蔵書の主題別構成を利用者に理解させ、検索するためのツールとなる。」⁽⁷⁾

そこで、NDCの分類表に注目し、その分類体系が蔵書の主題別構成を表現していることに手掛かりを得て、社会科学の各分野がNDCの各分類記号にどのように位置づけられているかをチェックすると、経済学では、学派別分類記号が階層構造の中で展開されていることを知ることが出来ます。

NDCは、「分類記号にアラビア数字のみを使用し、十進法で展開」⁽⁸⁾し、その構造は階層構造を形成しています。社会科学分野は3類で、300、310、320、330・・・と展開し、その分類項目名は社会科学、政治、法律、経済・・・と続きます。

NDCの各類概説では、3類について次のように説明しています。「この類に関する著作では、理論的研究と歴史的研究が多い」⁽⁹⁾、そして、「理論的著作のうち、社会思想(309)、経済学(331)、社会学(361)、教育学(371)については、諸学説の代表的人物を列举」⁽¹⁰⁾しています。

経済学では331. 2の経済学説史、経済思想で地理区分の表示があります。331. 3から331. 7までは「個々の経済学者の学説・体系を形成する著作および著作集は、ここに収める。」⁽¹¹⁾としています。

社会思想は「主義」別、社会学と教育学は各学説を地理区分して、「個々の学者の学説・体系を形成する著作および著作集は、ここに収める。」⁽¹²⁾としています。

本稿では、経済学分野に注目し、学派別分類記号に経済学の「理論的著作」の学説・体系、及びその「代表的人物」が「列举表示」されていることを示し、これらが経済学分野の著者、及び著作を発見する手掛かりにつながるのではないかと考え、これを提唱しています。併せてNDCの分類表から経済学の「学派別」分類記号のいくつかを例示しています。

2. 社会科学とは何か

2.1 社会科学の定義と学問分野

この章では、社会科学とは何かについて国語辞典や百科事典を使ってその定義を見て

いきます。

最初は、『広辞苑』第六版電子辞書版です。社会科学とは、「社会現象を対象として実証的方法によって研究する学問の総称。政治学・法律学・経済学・社会学・歴史学・文化人類学およびその他の関係諸科学を含む。」⁽¹³⁾

次は、『ブリタニカ国際大百科事典』小項目電子辞書版(以下、ブリタニカ)です。

社会科学とは、「社会における人間行動を科学的、体系的に研究する経験科学の総称。自然科学に対する。社会学、政治学、経済学、法学、社会心理学、教育学、歴史学、文化人類学などが含まれる。・・・自然科学が自然の客観的法則性の認識を追究するのと同様に、社会科学においても社会事象に関する法則性の解明が目指されるのであるが、認識対象に認識主体が含まれることから、自然科学との相違、およびその方法論をめぐっては諸説がある。」⁽¹⁴⁾

以下、英語版の2つの百科事典からの定義です。

1つは、“Encyclopaedia of the social sciences”(1930年)です。これをみると、最も初期の社会科学は、政治学(politics)、次に経済学(economics)、3番目は歴史(history)、4番目は法学(jurisprudence)としています。政治経済学(political economy)という概念も紹介しています。新しい社会科学の諸学問の最初は、人類学(anthropology)を挙げています。次は刑罰学(penology)、社会学(sociology)、教育学(education)、心理学(psychology)、地理学(geography)を挙げています。⁽¹⁵⁾

2つ目は、“International encyclopedia of the social sciences“(1968年)です。これをみると、A-Z順に次の10の学問分野を挙げています。人類学(anthropology)、経済学(economics)、地理学(geography)、歴史学(history)、法学(law)、政治経済学(political science)、精神医学(psychiatry)、心理学(psychology)、社会学(sociology)、統計学(statistics)。⁽¹⁶⁾

(注)学問分野の日本語名は『ジーニアス英和辞典』第4版電子版(大修館書店)を使って付与しています。

これらをみると、英語版の百科事典では、歴史学、心理学、精神医学等が社会科学の主題領域に入っていますが、「ブリタニカ」ではこれら3つの分野は社会科学分野に入っていません。

以上、国語辞典や百科事典の定義を見ると、社会科学の各部門は、政治学、法律学、経済学、社会学、歴史学、文化人類学、教育学等ですが、NDCでは、歴史学は2類の歴史に、心理学は1類の哲学に、精神医学は4類の自然科学に区分されています。ここでは、社会科学の学問分野はNDCに拠っています。

2.2 社会科学の研究の特性

この章では、『社会科学入門』等の著作を刊行している著者の図書や新聞記事から社会学者が社会科学の研究についてどのように表現しているか引用して見ていきます。

社会科学は、上記2.1の「ブリタニカ」の説明に見られるように、「社会事象に関する法則性の解明が目指される」⁽¹⁷⁾のようですが、「認識対象に認識主体が含まれることから」⁽¹⁷⁾、自然科学と対比して社会科学の研究特性に触れることが多々見られます。

岩波新書の内田義彦著『読書と社会科学』では、社会科学について、自然科学では電子顕微鏡のような「物的装置」を通して自然界の事象を観察することが出来る一方、社会科学では、「概念装置を脳中に組み立て、それを使ってものをみる。」と記しています。⁽¹⁸⁾

内田は、経済学における専門用語と学派についても触れていて、次のように書いています。

「社会科学の本が、使いなれた日常語ではなく、一語一語わずらわしいほど厳密な定義を受けた専門語の組み合わせからなっている、・・・その専門語も、資本などという日常語でもあるものが、専門語として、日常語とは違う意味内容をもって使われており、しかもその「厳密な」定義・意味内容は学派ごとに違っている」、・・・「その「専門語の組み合わせ」が、概念装置です。それを使って社会現象をとらえ、とらえたものをまたそれを使って伝達する。」⁽¹⁹⁾

「新しい概念装置をつくるために、その目的から—もう一度日常語ととりくみながら—新しい学術語をつくったり、すでに学界の共通財産になっている既存の学術語に新しく別個の概念規定を与えて使う場合が多いですね。それだから、同じ専門語が学派によってちがうということが起こってきます。」⁽²⁰⁾

次に、岩波新書の高島善哉著『社会科学入門:新しい国民の見方考え方』では、自然科学との対比において社会科学の特色を次のように記しています。この新書本は1954年6月に第1刷が出版されていますが、その後、1964年2月に第14刷改版が出版され、2022年の現在も刷を重ねて書店の書棚に並んでいます。

「社会学者には実験室というものは存在しない。」⁽²¹⁾「そこで社会学者は自分の頭のなかでこの研究室を作り、自分の頭のなかで一定の研究対象をあたかも目にみえるように作り上げてみなければならぬのである。」⁽²²⁾

「社会科学の研究においては研究者の立場ということが非常に大きな問題となる。」⁽²³⁾「政治学でも、法学でも、経済学でも、社会学でも、すべて社会科学に関する書物を開いてみると、必ず著者の立場がなぜ正しいか、他の著者の立場がなぜまちがっているかという議論が展開されている。そしてそれぞれの著者の立場が一致するというはまずほとんどありえない。学説の争いということは社会科学の常識である。」⁽²⁴⁾

放送大学教材の坂井素思、岩永雅也、橋本裕蔵著『社会科学入門:社会の総合的理解のために』では、「社会科学の目的は社会事象を理解すること」、そして「この事象には、ほかの分野の事象にはない社会事象特有の性格がある。」⁽²⁵⁾として以下の3つを挙げています。

ひとつは、「社会事象が変化することを常とする、動的なものだということである。」、2つ目は、「理解のための絶対的な基準をもたないということである。」、そして、3つ目は、「社会事象を構成する人びと、つまり理解の対象となる客体と、それを理解しようとす

る主体とが、ともに同じ世界に生きる人間だということがある。」⁽²⁶⁾「このことは、社会科学に対して、「われわれは現実の社会に何をするのか」という実践的な課題が常に突きつけられる要因となっているし、「何をなすべきなのか、すべきでないのか」といった価値判断を求められる要素にもなっているのである。」⁽²⁷⁾

そして、「社会的知識の性質」⁽²⁸⁾について、次のように指摘しています。

「社会科学であつかわれる知識で、もっとも基本的な性質は、その知識が「社会性(sociality)」を帯びている、という点にある。」⁽²⁹⁾、「ここにはかならず人間の創り出した「意味」が含まれている。」⁽³⁰⁾「社会科学で対象となる「事実」とは、ほとんどがなんらかの形で、誰かの「意見」などのような人間の観念を含むものだということである。」⁽³¹⁾そして、「社会科学が対象とするような知識は、他者との間に問題が生ずるたびに生成され、または更新される知識であるという性格を持っている。」⁽³²⁾、「社会的知識は、自らのもっている情報に他者のもっている情報を結合させたときに、はじめて意味をもつものだといえる。」⁽³³⁾

中東政治研究者は、「事実」と「真実」について次のように書いています。「事実は一つだが、誰にとってどう見えるか、どう受け止められるかで、真実はそれぞれ異なる。紛争物は、攻撃する側から書かれたものと、被害者側の視点からのものでは、「真実」が相反する。だから、読もうとしている本や論文が、どういう本やデータを引用し参照しているかを見るのが大事なんだよ」と指摘しています。⁽³⁴⁾

社会科学分野と著者について、政治問題から臨死体験まで多様な著作を発表している立花隆著『私の読書論』の「本の選び方」では、次のように記しています。

「特に社会科学系統の分野では、著者の立場によって、同じ問題を扱っても、全く正反対のことが書いてあることも珍しくない。経済学で言えば、マル経(マルクス経済学)の学者が書いたか、近経(近代経済学)の学者が書いたかによって、まるでちがう経済学の世界に導かれることになる。」⁽³⁵⁾

社会科学の研究における著者について、文部科学省に提出された「人文学及び社会科学の振興について(報告)」の中で「総論的な留意事項」の一つとして次のように指摘されています。

「自らが拠って立っている「価値」や「規範」などの歴史的、文化的な伝統に自覚的であること必要性である。ここでは、「学者」も歴史や文化の中の存在として、歴史や文化に拘束されていると考えている。したがって、一見、科学的に見える研究であっても、その「価値的前提」が問われなければならない。」⁽³⁶⁾

3. 日本十進分類法と経済学の学派別分類記号

3.1 日本十進分類法

NDCは1929年の刊行です。英語名はNippon Decimal Classificationで、その省略形はNDCです。NDCは、第1版(1929年)から[縮刷第8版](1948年)までは、森清個人の編

著で間宮商店から刊行され、新訂6版(1950年)から最新の新訂10版(2014年)に至るまで日本図書館協会の編著によって刊行されてきています。

現在、公共図書館や大学図書館ではNDCの新訂9版(以下、NDC9)が使われていますが、新訂10版(以下、NDC10)を採用する図書館も徐々に増えてきています。本稿では、新訂9版と新訂10版の両方を参照しています。

NDCは、十進のしくみを使った階層構造によって体系づけられています。NDCは、「アメリカのデューイ(Melvil Dewey, 1851-1931)が創案した十進方式(decimal system)を導入し、これを日本の図書館で適合するように再構成した、図書館の蔵書を分類するための表とその関係資料」⁽³⁷⁾からなっています。

NDCの分類記号は、「アラビア数字のみを使用し、十進法で展開」⁽³⁸⁾しています。なお、分類記号の数字は、213.6の場合、「ニ・イチ・サン・点・ロク」⁽³⁹⁾と呼ぶように解説に記されています。そして、ピリオドは三桁目と四桁目の間にだけ付与されます。

NDC9は1995年の刊行で、その構成は本表編と一般補助表・相関索引編の2分冊です。NDC10は2014年12月の刊行で本表・補助表と相関索引・使用法からなり、NDC9と同様に2分冊です。NDC10は、NDC9のA5判からB5判と変更され、判型が大きくなっています。

NDC10の表は、第1次区分表、第2次区分表、第3次区分表・・・のように階層化され、第1次区分は類、英語名はclass、第2次区分は綱、英語名はdivision、第3次区分は目、英語名はsection、第4次区分は分目、第5次区分は厘目、第6次区分は毛目で、第4次区分から第6次区分の英語名はsubsectionです。

本表は分類記号と分類項目名が第1次区分から第6次区分まで展開されて列挙表示されています。ただ、すべての分類記号と分類項目名がすべて第6次区分まで展開しているわけではなく、例えば、経済学の分類記号331の場合は、331経済学. 経済思想、331.4 古典学派[正統学派]、331.42スミス Smith, Adam. 1723-1790と第5次区分までとなっています。

第1次区分表の分類記号の配列は次のようになっています。0総記、1哲学、2歴史、3社会科学、4自然科学、5技術、6産業、7芸術、8言語、9文学。

3類の社会科学の第3次区分は次のように展開されています。300社会科学、310政治、320法律、330経済、340財政、350統計、360社会、370教育、380風俗習慣. 民俗学. 民族学、390国防. 軍事。

3.2 NDC10の331 経済学の学派別分類記号と分類項目名

NDC10の分類表から331経済学の学派別分類記号と分類項目名の一部を以下に表示しています。^(注1)

331 経済学. 経済思想

<学派別>

*個々の経済学者の学説・体系を形成する著作およびその著作集は、ここに収める

*掲出されていない経済学者の学説は、該当する学派の下に収める

331. 4 古典学派[正統学派]

331. 42 スミス

331. 6 社会主義学派.マルクス経済学派

331. 7 近代経済学派.近代理論

331. 74 ケンブリッジ学派[古典学派]. ケインズ学派.ロンドン学派

331. 77 計量経済学派

331. 8 経済各論

*. 81/. 88には、経済各論の包括的な著作・概論・歴史などを収め、個々の経済学者の学説・体系を形成する著作は. 3/. 7に収める

331. 82 資本の理論

331. 845 市場の理論

331. 85 分配の理論：地代, 賃金, 利潤, 利子

331. 86 国富. 国民所得. 国民経済計算[社会会計]. GNP. GDP

3.3 洋書の分類記号

NDCは、前述(3.1)のように国内の大学図書館、公共図書館、学校図書館等で広く使われていますが、図書館に拠っては、和書(日本語)はNDC、洋書(英語)はデューイ十進分類法(以下、DDC)で分類する場合があります。^(注2)

DDCの分類記号は、MARC21に掲載されています。MARCはMachine Readable Catalogの省略形で、機械可読目録です。MARC21にはアメリカ議会図書館(Library of Congress、以下、LC)の分類記号とDDCの分類記号が掲載されています。

図書館では目録作成する時に、図書の主題を把握して分類表から該当する分類記号を見つけて付与しますが、洋書の場合、MARC21を利用することが出来ればMARC21に掲載されたDDCの分類記号を利用することができます。洋書にDDCを採用している大学図書館や公共図書館では、英語の図書を分類する時に、このDDCの分類記号を利用することができます。

本稿で参照しているのはDDC(紙版)第22版(以下、DDC22)で、社会科学部門の経済学の学派別(school of thought)分類記号です。^(注3)

DDC22の一部を書き写し、雑誌で公刊するには著作権者の許諾を得る必要がありますが、今回はOCLCへ照会するには十分な時間がないので省略しています。

4. NDCの分類記号へのアクセス

4.1 NDCの冊子体を利用した分類記号へのアクセス

分類記号を使って検索するためには、当該主題のNDCの分類記号を見つける必要があります。NDCの分類記号を見つけるためには、NDCの冊子体版を利用する場合とオ

オンライン閲覧目録(以下、OPAC)を利用する場合があります。

図書館の閲覧室の検索コーナーにはNDCの紙版が用意されています。NDCの新訂9版は、前述(3.1)のように、本表編と一般補助表・相関索引編の2分冊、新訂10版は、本表・補助表編と相関索引・使用法編の2分冊です。

NDC10紙版を利用する場合、本表・補助表編(以下、本表)を使って当該分類記号を見つける方法と相関索引・使用法(以下、相関索引)を使う方法があります。

本表を利用する場合、本表は総記の0類から文学の9類まで順に並んでいます。頁をパラパラ開いていって分類記号の表を順次見ていくと、例えば、求める主題が経済学のアダム・スミスの場合には、331.42の分類記号を知ることが出来ます。

一方、相関索引は、分類項目の索引語が「ヨミの五十音順」⁽⁴⁰⁾に配列されています。NDC10の相関索引を使うと、例えば、経済学の場合は、ケイイの頁に経済学 331と表示されていますので、これは頁数ではなく、経済学の分類記号は331と知ることが出来ます。次に本表の331を見ると、331経済学と表示されていますので経済学の分類記号は331と確認出来ます。

4.2 OPACを利用したNDCの分類記号へのアクセス

OPACは、利用者がリアルタイムに図書館の蔵書にアクセス出来るインターネット上のオンライン閲覧目録で、英語名はOnline Public Access Catalog、その省略形はOPACです。

OPACの画面にはタイトルや著者名などの書誌情報と当該図書館の請求記号が表示されています。この書誌情報にNDCの分類記号が表示されています。

利用者が本を探す場合、タイトルや著者名をすでに知っている場合には、タイトルや著者名を使って検索しますが、タイトルや著者をまだ知らない場合には、主題(テーマ)からアクセスします。

主題検索では、インターネット上のOPACにアクセスして、OPACの画面にある検索項目の「タイトル」に主題となる、例えば、社会科学、或は、経済学などを入力して検索実行します。その検索結果、複数のタイトル、著者などの書誌情報を含んだ一覧表示が画面に表示されます。

この一覧表示の中から任意に1つのタイトルの書誌情報を選びます。この書誌情報にはタイトルに社会科学、或は、経済学の言葉を含んだ図書が表示されます。この図書の書誌情報の中に社会科学、或は、経済学のNDCの分類記号が表示されています。

利用者が主題から図書館の蔵書にアクセスする場合、検索結果は利用した図書館の蔵書量に限定されますので、資料を発見するには大規模な図書館にアクセスする方が効果的です。一方、資料の閲覧・貸出サービスを利用する場合には、身近な図書館を利用した方が良いことになります。

5. OPACの検索項目

5.1 NDL ONLINE 国立国会図書館オンラインの検索項目

国立国会図書館(以下、NDL)は、「国立国会図書館法」第2条によって、「図書及びその他の図書館資料を蒐集し、国会議員の職務の遂行に資するとともに、行政及び司法の各部門に対し、更に日本国民に対し、この法律に規定する図書館奉仕を提供することを目的とする。」⁽⁴¹⁾と規定されています。

NDLのOPACはインターネット上に公開されています。インターネットにアクセス出来れば誰でも無料で利用出来ます。NDLのOPAC名は、「NDL ONLINE 国立国会図書館オンライン」⁽⁴²⁾(以下、NDL ONLINE)です。

NDL ONLINEにアクセスすると、「キーワード、詳細検索」が表示されています。この詳細検索をクリックすると、すべて、図書、雑誌など資料の種類が横一行に並んでいます。その下に、検索項目の「タイトル」、「請求記号」、「著者・编者」、「出版者」、「出版年」、「件名」、「分類」、「各種番号」、「本文の言語コード」、「原文の言語コード」、「国名コード」、「オンライン閲覧」、「所蔵場所」、「資料形態」、「データベース」⁽⁴³⁾があります。

NDLの分類表は「国立国会図書館分類表」(以下、NDLC)ですが、NDL ONLINEの「分類」にNDCの331と入力して検索実行すると経済学の図書がヒットします。ヒットし1冊を選んで、「詳細な書誌情報を表示」をクリックするとNDLの分類(NDLC)DA43と共にNDCの分類記号331も表示されます。因みに331でヒットした中の1冊、E.シルバーバーグ著の『現代経済学 上』、マグローヒルブック、1984. 4のNDLの請求記号はDA43-42です。

5.2 CiNii Books 大学図書館の本をさがすの検索項目

「CiNii Books 大学図書館の本をさがす」⁽⁴⁴⁾は、国内の大学図書館と英国のオックスフォード大学の日本語図書館等が参加して書誌データをオンラインで入力・作成している総合目録データベースです。運営は、国立情報学研究所(National Institute of Informatics、以下、NII)が行っています。

「CiNii Books 大学図書館の本をさがす」の画面の下には「CiNiiについて」があり、次のように説明しています。

「CiNii (NII学術情報ナビゲータ[サイニィ])は、論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報で検索できるデータベース・サービスです。どなたでもご利用いただけます。」⁽⁴⁵⁾

CiNiiの「CiNii Books 大学図書館の本をさがす」は、「全国の大学図書館等が所蔵する本(図書・雑誌)の情報を検索できます。」⁽⁴⁶⁾ので、図書だけでなく雑誌名も検索出来ます。

検索項目は次のようになっています。最初の行には、「フリーワード」があり、また「す

すべての資料」か「図書」か「雑誌」の選択枠も用意されています。その下の行に、「タイトル」、「著者名(別名を含む、とあります)」、「著者ID」、「統一タイトルID」、「出版者」、「ISBN」、「ISSN」、「NCID」、「件名」、「分類」、「注記」、「資料種別」、「言語種別」、「出版年(・・・年から・・・まで)」、「図書館ID」、「機関ID」、「地域」⁽⁴⁷⁾などが表示されています。

検索項目の「分類」に表示されるのはNDCの分類記号ですが、検索した図書の書誌情報には、参加している所蔵館によって、分類記号にはNDC9の表示だけでなく、NDC7、NDC8などの古い版も表示される場合もあります。また、

新しい版のNDC10の分類記号も表示される場合もあります。

検索項目の「分類」にNDCの331と入力して検索します。検索結果を出版年の新しい順に指定すると、2022年9月出版の『経済学の認識論:理論は歴史の娘である』が最初の行に表示されます。これをクリックすると以下のように書誌事項が表示され、画面の右下に分類：NDC9:331、NDC10:331と表示されます。

書誌事項はここでは次のように横書きにしています。経済学の認識論:理論は歴史の娘である ロベール・ボワイエ[著];山田鋭夫訳 藤原書店, 2022. 9。CiNii Booksの画面では横書きです。その他の書誌事項のページ数と大きさは画面の右側に表示されます。^(注4)

6. 日本目録規則における同姓同名の著者名の識別

6.1 日本目録規則における同姓同名の著者名の識別

日本目録規則は、現在『日本目録規則』1987年版改訂3版(以下、NCR1987)が使われていますが、新しい版の『日本目録規則』2018年版(以下、NCR2018)も刊行され、使われるようになってきています。日本目録規則の英語名はNippon Cataloging Rulesで、省略形はNCRです。

NCRは、図書館で収集された資料について、利用者が国内のどの図書館を使っても、OPACの画面で同じ書誌情報の形で資料に接することが出来るように記述され、標準化された目録規則です。

NCR1987では、著者名の同定識別は第II部の「標目」の「著者標目」の中の「標目の形」で次のように規定されています。「同名異人は、生没年を付記して区別する。生没年で区別できないときは、さらに、職業、専門分野、世系等を付加して区別する。」⁽⁴⁸⁾

なお、標目は「書誌的記録を検索する手掛かりとなるもの」⁽⁴⁹⁾ですが、NCR2018では、標目という用語ではなく、「アクセス・ポイント」が使われています。アクセス・ポイントは、「それにより書誌データまたは典拠データを検索し、識別する名称、用語、コード等がある。」⁽⁵⁰⁾と用語解説されています。

NCR2018では、著者名の同定識別については「典拠形アクセス・ポイントの構築」

の中の「生年および(または)没年」で次のように規定されています。「同一名称の他の個人に対する典拠形アクセス・ポイントと判別するために必要な場合は、生年および(または)没年を優先名称に付加する。生年および(または)没年は、年のみを記録する。ただし、別の個人に対する典拠形アクセス・ポイントと判別するために必要な場合は、月または月日を付加する。」⁽⁵¹⁾

以下は、大島清の例で、生年は2人とも同じ年ですが、没年と専門分野が異なります。

- (1) 大島清 おおしま きよし 1913年3月31日-1984年5月15日 農業経済学
- (2) 大島清 おおしま きよし 1913年12月9日-1994年10月8日 金融論

6.2 NDL ONLINE 国立国会図書館オンラインのWeb NDL Authorities

Web NDL Authoritiesは、「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス」⁽⁵²⁾です。このサービスはウェブ上で提供されていますので、この典拠データにアクセスし、閲覧することで著者名を確認することが出来ます。

この「典拠データ検索・提供サービス」へのアクセス方法は、ウェブ上でNDL ONLINEにアクセスして、本のタイトル等で検索し、その検索結果の書誌情報の画面から、更に右下にある「詳細な書誌情報を表示」をクリックすると、文字通り詳細な書誌情報が表示されます。そこで、この画面で、著者標目と同じ行にある記号をクリックすると、「Web NDL Authorities」の画面になります。

これは、「著者のID」、「典拠種別」、「名称/タイトル」、「名称/タイトルのカナ読み」、「名称/タイトルのローマ字読み」、「生年」、「経歴」、「関連リンク/出典」、「出典」、「作成日」、「最終更新日」、「外部サイトへのリンク」、「他形式のデータ」等⁽⁵³⁾から構成されています。「出典」には、本の奥付や「研究者研究課題総覧」等が記載されています。

7. NCRと共著者

刊行された図書に共著者がいる場合、OPACでは著者が2人の場合は2人とも書誌情報に記載されますが、3人以上の著者の場合は筆頭著者だけ記述されます。⁽⁵⁴⁾

例えば、井手英策、宇野重規、坂井豊貴、松沢裕作の共著、『大人のための社会科:未来を語るために』、2017年の場合には、「責任表示」⁽⁵⁵⁾の記述は、井手英策[ほか]著のようになります。

NIIのCiNii Booksの画面の書誌情報もこのようになっていますが、検索の手掛かりのアクセス・ポイントは4人すべて記載されています。国立国会図書館のOPACのNDL ONLINE 国立国会図書館オンラインでは、OPACの画面の責任表示には4人の著者が記載されています。3人以上の著者名については、筆頭著者だけの場合と、この4人の場合のように、全員の著者名を記述する場合の両方が見られます。

8. おわりに

学びを進めていく中で、社会科学分野の本の選択は、「読書と人間形成」のそれとは異なることに気づかされます。

この気づきにヒントを得て、社会科学とは何かを辞典・事典を使って定義し、社会科学の研究特性はどのようなものかを社会科学者の著作や新聞の「読書」に掲載された記事等から引用してその特性をつかんでいます。

社会科学分野の本の発見について主題別に構成された図書館の分類体系に注目してみると、分類表は「特定の分類体系を提示し、その体系の各項目名に一定の方式に従った記号を対応させた一覧表で、・・・蔵書の主題別構成を利用者に理解させ、検索するためのツールとなる。」⁽⁵⁶⁾機能を備えていることがわかります。

この日本十進分類法 (NDC) の学派別分類記号には、社会科学分野における経済学の理論的著作の学説・体系の代表的人物が位置づけられています。本稿では、このNDCの経済学の学派別分類記号が経済学分野における著者、並びに著作を発見する手掛かりになるのではないかと考察を加え、提案しています。

著者名については同姓同名が考えられますので、『日本目録規則』(NCR)の規則を参照しています。NCR1987では「著者標目」、NCR2018では「アクセス・ポイント」に著者の同姓同名についてその同定識別の方法が記載されています。ウェブ上では国立国会図書館オンラインの「Web NDL Authorities」に著者名の同定識別が掲載されています。

(注1) 331の<. 3/. 7学派別>の分類記号と分類項目の表示は、日本十進分類法新訂10版本表・補助表編のp. 171-p. 174から一部を抜粋したものです。

(注2) 洋書(英語)の分類記号にDDCを採用している大学図書館は、Google検索とCiNii Booksで調べた限りでは以下の図書館でした。2022年10月24日時点
中央大学図書館、実践女子大学・実践女子大学短期大学図書館、関西学院大学図書館、国際基督教大学図書館、南山大学図書館、日本女子大学図書館、大阪教育大学附属図書館、成蹊大学図書館、清泉女子大学附属図書館などです。公共図書館では、岡山県立図書館が採用しています。

(注3) 使用しているDDCの22版(冊子体)の書誌情報はDewey Decimal Classification and Relative Index devised by Melvil Dewey, OCLC、2003、edition 22 volume 2、schedules 000-599です

(注4) CiNii Books 大学図書館の本をさがす、のウェブ頁 <https://ci.nii.ac.jp/books> 2022年11月8日

引用文献

- (1) 阪本一郎[ほか]編『新読書指導事典』第一法規出版、1981 p. 1
- (2) 弥永光長編『図書の選択』日本図書館協会、1968(図書館の仕事 ⑥) p. 89
- (3) *ibid.* p. 89
- (4) 真鍋一史「価値観の研究の視座 - 経緯・課題・展望 -」『法学研究』86 巻第7号
2013. 7 p440-454
- (5) 図書館法改正 平成 23. 12. 14 法律第 122 号第 2 条 in『図書館学基礎資料』第 12 版、
樹村房、2015 p. 12
- (6) *ibid.* 第 3 条 p. 12
- (7) もり・きよし原編『日本十進分類法』新訂 9 版 日本図書館協会、1995、本表編 p. x
- (8) *ibid.* 本表編 p. xiv
- (9) *ibid.* 本表編 p. xliv
- (10) *ibid.* 本表編 p. xlv
- (11) *ibid.* 本表編 p. 136
- (12) *ibid.* 本表編 社会学は p. 154、教育学は p. 162
- (13) 『広辞苑』逆引き検索対応 第六版 電子辞書版、岩波書店、2012
- (14) 『ブリタニカ国際大百科事典』小項目 電子辞書版、ブリタニカ・ジャパン、2012
- (15) "What are the social sciences?" Encyclopaedia of the social sciences. Ed. by Edwin
R.A.Seligman. Macmillan, 1930 Vol. One p. 3-p. 7
- (16) International encyclopedia of the social sciences. Ed. by David L. Sills. Macmilan &
The Free Press, c1968, p. xxii
- (17) *op. cit.* (14)
- (18) 内田義彦著『読書と社会科学』岩波書店、1985、岩波新書;288、p. 145
- (19) *ibid.* p. 146
- (20) *ibid.* p. 147
- (21) 高島善哉著『社会科学入門:新しい国民の見方考え方』第 14 刷改版 岩波書店、
1964、岩波新書:170、p. 13
- (22) *ibid.* p. 13
- (23) *ibid.* p. 17
- (24) *ibid.* p. 18
- (25) 坂井素思[ほか]編著『社会科学入門:社会の総合的理解のために』放送大学教育振
興会、1997、放送大学 教材 12339-1-9711、p. 3
- (26) *ibid.* p. 3
- (27) *ibid.* p. 3-4
- (28) *ibid.* p. 166
- (29) *ibid.* p. 166

- (30) *ibid.* p. 167
- (31) *ibid.* p. 167
- (32) *ibid.* p. 168
- (33) *ibid.* p. 168
- (34) 酒井啓子「視点の違いで真実は異なる」、「本は典拠の見極めが大事」、読書「半歩遅れの読書術」『日本経済新聞』2020年9月19日 p. 24
- (35) 立花隆著「私の読書論」in 『ぼくはこんな本を読んできた：立花式読書論、読書術、書斎論』文藝春秋、1995 p. 64
- (36) 人文学及び社会科学の振興について（報告）－「対話」と「実証」を通じた文明基盤への道－科学技術・学術審議会、学術分科会、2009. 1. 第二章 p. 1
- (37) *op. cit.* (7) 本表編 p. xii
- (38) *op. cit.* (7) 本表編 p. xiv
- (39) *op. cit.* (7) 本表編 p. xv
- (40) *op. cit.* (7) 相関索引・一般補助表編 p. 41
- (41) 国立国会図書館法 第2条 in 今まど子編著『図書館学基礎資料』第12版、樹村房、2015、p. 20
- (42) NDL ONLINE 国立国会図書館オンライン <https://ndlonline.ndl.go.jp/> 2022年11月8日
- (43) *ibid.*
- (44) CiNii Books 大学図書館の本をさがす <https://ci.nii.ac.jp/books> 2022年11月8日
- (45) CiNii について <https://ci.nii.ac.jp> 2022年11月8日
- (46) *op. cit.* (44)
- (47) *op. cit.* (44)
- (48) 日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則』1987年版改訂3版、日本図書館協会、2006 p. 325
- (49) *ibid.* p. 314
- (50) 日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則』2018年版、日本図書館協会、2014 p. 709
- (51) *ibid.* p. 557
- (52) <https://id.ndl.go.jp/auth/ndlna/> 2022年11月8日
- (53) *ibid.*
- (54) *op. cit.* (48) p. 67
- (55) *op. cit.* (48) p. 66
- (56) *op. cit.* (7) 本表編 p. x

参考文献

緑川信之著『本を分類する』勁草書房、1996、viii, 224p

井手英策[ほか]著『大人のための社会科：未来を語るために』有斐閣、xi, 232, vi p

ハイト、ジョナサン著、高橋洋訳『社会はなぜ右と左に分かれるのか：対立を超えるための道徳心理学』紀伊国屋書店、2014、613p

謝辞

原稿の投稿にあたっては、成蹊大学教職課程センター所長宮下敦教授にお世話になりました。また経済学部之二井正浩教授には推薦者になっていただきました。お二人のお力添えがなければ原稿を掲載することが出来ませんでした。厚くお礼申し上げます。

この原稿では、『日本十進分類法』の掲載・引用が欠かせません。編集・発行の日本図書館協会に問い合わせたところ許諾をいただきました。国立国会図書館(NDL)からは、「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス」Web NDL Authoritiesの項目の掲載の許可をいただきました。国立情報学研究所(NII)からはCiNii Booksの検索項目の掲載について許可をいただきました。

斎藤憲一郎（成蹊大学教職課程センター 非常勤講師）

執筆日 2022年11月22日

推薦者 二井正浩（経済学部教授）